

令和元年 12 月 大槌町議会定例会

# 行政報告

令和元年 12 月 6 日

大 槌 町



本日、ここに令和元年12月大槌町議会定例会の開会にあたり、9月定例会以降における町政運営について、ご報告を申し上げます。

## 1 はじめに

東日本大震災津波の発生から8年9ヶ月が経過しようとしております。改めて震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

これまで、町民の皆様と一丸となって進めてまいりました復興事業も最終段階を迎え、去る11月15日、赤浜地区北側斜面団地内の災害公営住宅7戸が完成したことにより、当町で計画した876戸すべての災害公営住宅が供用開始となりました。また、土地区画整理事業、防災集団移転促進事業及び漁業集落防災機能強化事業による1,401宅地についても、すでに整備が完了していることから、当町における主要復興事業は、大きな節目を迎えたところであります。

さらに、赤浜地区公民館・復興まちづくり支援施設も去る9月30日に完成し、来年1月の供用開始に向けて準備を進めているところであります。これをもって、東日本大震災津波で流出したすべての公共施設の復旧が完了し、新たに建設する集会施設についても、来年1月に完成予定の枉内集会所をもって、すべて完了することになります。

今後につきましては、災害公営住宅の一般化及び戸建住宅の払い下げ、防集団地における空き区画の一般分譲化、防集跡地の利活用など、次のステッ

プに向けた準備を遅滞なく進めるとともに、コミュニティの再生や「心の復興」に向けた取り組みを継続してまいります。

また、現在、国が公表している「復興・創生期間後における東日本大震災からの復興の基本方針骨子案」のなかでは、復興庁の設置期間を令和3年度から10年間延長し、引き続き内閣直属の組織とすることとしており、東日本大震災復興特別会計及び震災復興特別交付税制度が継続されることになっております。

また、復興・創生期間後も対応が必要な事業については、復興・創生期間後5年間において、取り組みを着実に実施することになっております。

しかしながら、具体的な方向性については調整中となっており、心のケア等の被災者支援、被災した子どもに対する支援、災害公営住宅の家賃低廉化事業及び特別家賃低減事業、中小企業等グループの再建支援や企業立地補助金の申請・運用期限の延長が確実に成されるよう、今後も国に対し、積極的に働きかけを行って参ります。

さらに、今後の課題となっている土地区画整理事業による宅地造成後のまちのにぎわい創出や、防災集団移転促進事業の移転元地等における利用計画の策定及び具体的な土地の利用ニーズに応じた利活用の推進について、国の支援が活用できるよう要望して参ります。

以下、町政運営の概要についてご報告申し上げます。

## 2 台風 19 号による被害等への対応について

はじめに、台風 19 号による被害等への対応について申し上げます。

去る 10 月 12 日から 13 日にかけて、日本列島を直撃した台風 19 号の大雨により、二級河川大槌川大ケ口地区において河川堤防部分が洗掘される被害が発生しました。このことを受け、河川管理を行っている岩手県沿岸広域振興局主催のもと、去る 11 月 15 日と 18 日の 2 日間、大ケ口地区で住民説明会を開催したところであります。

説明会では被災状況と復旧工事の概要説明のほか、大ケ口公園付近の護岸工事の完了時期が来年 8 月であることが示されましたが、近隣住民の皆様が一日も早く安全・安心な暮らしができるよう、引き続き県に対して、早期完成に向けた働きかけを行って参ります。

また、三陸鉄道につきましては、全長約 163 キロメートルの運行区間のうち、64.1%にあたる 104.5 キロメートルで運行を休止しており、当町では吉里吉里駅から浪板海岸駅間において土砂が流入するなどの被害が発生しております。

現在は、釜石駅から津軽石駅間、田老駅から久慈駅間で運行を見合わせており、応急の対応として、代行バスによる運行が実施されております。

なお、三陸鉄道では、大槌町内の駅を含む陸中山田駅から釜石駅までの区間を来年 3 月までに復旧させることを目標としており、当町においても岩手県や沿線市町村と一体となって三陸鉄道の復旧支援を実施して参ります。

### 3 各分野の取り組み方針

#### 【産業・観光】

##### (魅力ある産業の振興)

次に、魅力ある産業の振興について申し上げます。

産業振興につきましては、各分野において、徐々に新規就業、新分野進出の動きも見え始めていることから、今後も継続的な就業支援を行うとともに、地場産業活性化センターなどを活用した高付加価値化への取り組みを後押しし、町民所得の向上を図って参ります。

去る10月27日、文化交流センターおしゃっちで開催された大槌商工会主催の「おおつち産業まつり」には、多くの商工業者が出店しました。なかでも今回は、古くから住民の間で親しまれている郷土料理「ひつつみ」に焦点を当て、「東北のショートパスタ」として、町内18事業者が開発した創作ひつつみ6品の販売を行い、好評を得たところであります。

また、鹿肉等を活用したジビエ料理をPRするため、鹿カツのお振舞いも行われ、町内外から約2,000人のお客様にご来場いただき、交流人口の拡大や商工業と食の振興に繋がったものと考えております。

今後も地域の力を十分に発揮できるよう、事業者の声に寄り添いながら、町民、関係団体、事業者等と連携し、ワンチーム大槌で産業の振興に努めて参ります。

## (大槌ならではの観光の推進)

次に、大槌ならではの観光の推進について申し上げます。

去る 11 月 2 日、文化交流センターおしゃっちにおいて、沿岸市町村等で構成される三陸国際芸術推進委員会との共同により、「シシの系譜／その先へ」の公演を行いました。公演には町内外から約 300 人が来場され、インドネシア・バロンダンスと当町の郷土芸能団体との国際共同制作により、大槌町の民話を踊りで表現する創作作品を上演しました。公演の開催にあたっては、関係された皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、引き続き町民の皆様と一体となって、町の魅力を発信して参ります。

また、去る 11 月 29 日には、岩手・宮城・福島の被災 3 県の自治体を対象に、震災でこれまでご支援いただいた海外の国や地域に、復興した姿を見せつつ、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた交流を行う「復興ありがとうホストタウン」の相手国として、サウジアラビア王国が承認されたことをご報告申し上げます。当町の相手国は台湾に続き二カ国目であり、サウジアラビア王国からは、東日本大震災時において、応急仮設住宅に入居する被災者約 2,000 世帯に対し、LP ガスを一部無償で提供していただくなど、多大なご支援をいただいております。

また、当町では野田村と連携し、去る 11 月 27 日から 30 日までの期間、両町村の魅力を広く PR していただくために、台湾で活躍するスポーツ選手等を招請し、認知度の向上及び両町村の魅力発信連携事業を行ったところであ

ります。この復興ありがとうホストタウンを契機に両国との交流を深めるとともに、外国人観光客の誘客拡大につなげ、交流人口の拡大を図って参ります。

本年の「おおつち鮭まつり」は、鮭の不漁の影響により、誠に残念であります。まつりの目玉となる「鮭のつかみ取り」の実施を見送ることとなり、会場も文化交流センターおしゃっちで開催することとしております。

明日12月7日は「SAKE！さけ！前夜祭」として、酒造メーカーや関係団体と連携し、大槌町産の酒米を使ったお酒や地元の食材を活用した料理のPRを含めた交流会を開催します。また、翌8日は、新巻鮭など当町の特産品をはじめ、海賊鍋のお振舞いなど大槌の味覚を楽しく味わえる内容となっております。本イベントに多くの観光客や地元の方々がご来場していただけることを期待しております。

### (中心市街地の活性化)

次に、中心市街地の活性化について申し上げます。

消費税・地方消費税率の10%への引上げが低所得者・子育て世帯の消費に与える影響を緩和するとともに、地域における消費を喚起、下支えすることを目的に、プレミアム付商品券を去る9月25日から販売しております。

また、本年10月1日から来年3月8日までの期間においては、町内の事業者の活性化を図るため、小規模事業者を対象とした大槌町プレミアム付商品



券スタンプラリーを開催しているところであります。

今後につきましても、町民、関係団体、事業者等と連携しながら、町の産業を盛り上げ、中心市街地が活性化されるよう交流人口の拡大に向けた取り組みを進めて参ります。

## 【健康・福祉】

### (地域福祉の推進)

次に、地域福祉の推進について申し上げます。

去る 11 月 30 日をもって、当町における民生委員児童委員の 3 年間の任期が満了し、12 月 1 日付で新たに、民生委員児童委員 35 名、主任児童委員 3 名が厚生労働大臣から委嘱されたところであります。

当町の民生委員児童委員及び主任児童委員の定数は 48 名であり、改選前と比べて 1 名の増となったものの、未だ 10 名の欠員があり、充足率は 79.2% となっております。

今後につきましても、自治会や関係機関との連携及び情報共有を図りながら候補者選定を継続し、民生委員児童委員の充足率を高めるために努めて参ります。

### (健康づくりの推進)

次に、健康づくりの推進について申し上げます。

町の保健事業の拠点となる「大槌町保健センター」の整備につきましては、去る 10 月 29 日に基本実施設計業務の契約を締結し、基本設計に着手したところであります。

今後につきましても、着工に向けたスケジュールを遅滞なく進め、来年度中の完成を目指し、整備を進めて参ります。

### (子育て環境の充実)

次に、子育て環境の充実について申し上げます。

本年 10 月から幼児教育・保育無償化制度がスタートし、当町においては、町独自事業として、国の制度の対象外となる 3 歳未満の住民税課税世帯の子どもの保育料と 3 歳以上の副食費の保護者負担について 4,500 円を上限とした無償化を実施しているところであります。

また、継続して民間保育所等における保育士確保を支援するため、町では独自の処遇改善を図り、地域の関係機関と連携し、保育の質の向上と待機児童数ゼロを目指し、子育て環境の充実を推進して参ります。

本年度は、平成 27 年 3 月に策定した「大槌町子ども・子育て支援事業計画」が終了し、次の 5 ヶ年を見据えた「第二期大槌町子ども・子育て支援事業計画」の策定年度となっております。策定に向けた取り組みとして、去る 9 月 27 日と 11 月 27 日に「子ども・子育て会議」を開催し、貴重なご意見をいただいております。

今後につきましては、議員の皆様への中間報告を経た上で、パブリックコメントを実施し、来たる3月定例会への上程を目指して策定作業を進めて参ります。

## 【教育・文化】

### （教育の充実）

次に、教育の充実について申し上げます。

本年9月から11月にかけて、全国から15団体、約90名の教育関係者や議員の方々が当町を訪れ、教育委員会及び大槌、吉里吉里両学園を視察されました。これは「小中一貫教育」、「ふるさと科」、そして、学校・家庭・地域・行政が協働で取り組んでいる「コミュニティ・スクール」の取り組みが県内外から注目されていることによるものです。

また、去る11月13日開催の第4回大槌高校魅力化構想会議では、「大槌高校魅力化構想骨子」が示され、魅力化コンセプトを「大海を渡る、大槌を持とう<sup>ハンマー</sup>」にすることや、目指す人材像などについて承認されました。去る11月19日には、岩手県教育委員会へ骨子を提出し、今後の協力について要望してきたところであります。

今後につきましても、大槌高校と町が協働しながら、大槌高校の魅力化に向けた取り組みを一層推進して参ります。

## (震災伝承の活動状況)

次に、震災伝承の活動状況について申し上げます。

去る8月5日に発刊した岩手県大槌町東日本大震災記録誌「生きる証」の配布状況につきましては、ご支援いただいた自治体や関係機関などへの寄贈が674冊、購入を希望される方への販売が936冊と、11月末現在で合計1,610冊配布しているところであります。購入希望者は全国に広がり、その中でも防災や教育関係者が多数を占めており、当町の震災記録誌に対する関心の高まりを感じているところであります。

去る11月からは、文化交流センターおしゃっちにおいて、近畿大学と共同で「幕間の風景」と題した復興の街並みを記録したモノクロ写真展を開催しており、また、エントランスホール内に展示している街並み模型に改良を加えるワークショップ「ふるさとの記憶 2019 in 大槌」を神戸大学と協力して開催したところであります。

そのほか伝承活動の一環として、去る11月10日に宮城県仙台市で開催された「仙台防災未来フォーラム」において、当町の震災伝承の取り組みを発表するなど、町内外において震災伝承活動を展開しております。

## 【安全・快適】

### (災害に強いまちづくりの推進)

次に、災害に強いまちづくりの推進について申し上げます。

地域防災の取り組みにつきましては、町内の児童・生徒及び地域住民を対象とした出前授業や防災学習会を積極的に開催しているところであります。

去る10月30日には、防災学習の一環として、地域住民や関係機関との協働で実施した避難訓練についての実践発表会を大槌学園で行ったところであり、今後も、学校や地域との連携を図りながら、主体的に防災について考え、行動できる人材の育成に努めるとともに、防災知識の普及啓発に取り組んで参ります。

また、町全体の取り組みとしましては、去る11月10日、文化交流センターおしゃっちを会場に、「見る、触れる、学ぶ、体験する」をテーマに「大槌町防災フェスタ」を開催したところであります。今回は、子育て世代が防災に興味、関心を持ち、改めて学んでもらうことを目的に、一般社団法人Tsubomiの皆様が毎年開催している「子育てフェス」と共同で開催しました。

屋内会場では、「地域を知ろう、防災を学ぼう」をテーマに、ワークショップの実施、子育て世代が災害時に役立つ方法や非常食の紹介のほか、屋外会場では、防災関係車両の展示や各種体験コーナー、災害救助犬のデモンストラクション等を実施し、約1,500人の方にご来場いただいたところであります。

また、去る11月16日には全町一斉の津波防災訓練を実施したところであり、今回も地震発生から避難までの行動を改めて再確認していただくため、命を守るための具体的な行動を記したチェックシートを訓練前に全戸配布し、訓練当日は多くの住民の皆様にご参加いただいたところであります。

両事業ともに、本年度の反省点や課題についての見直しを行いながら、防災意識の高揚と地域防災力の向上を図るための取り組みを進めて参ります。

### (一日も早い住まいの確保と生活再建支援)

次に、一日も早い住まいの確保と生活再建支援について申し上げます。

土地区画整理事業の進捗につきましては、既に換地処分公告済みの町方地区、赤浜地区、吉里吉里地区における清算金の徴収・交付事務作業を行っているところであり、安渡地区につきましては、去る10月1日に県知事から換地計画の認可を受け、来年2月中の換地処分を目指し、作業を進めているところであります。

その他、防災集団移転促進事業や災害公営住宅整備事業など、住宅再建の柱となる主要復興事業が完了したことに伴い、48箇所あった応急仮設住宅団地は、11月末現在で9箇所まで縮小しており、本年度内には全団地の閉鎖を見込んでいるところであります。

今なお、応急仮設住宅での暮らしを余儀なくされている38世帯の皆様には、それぞれの課題や悩みに対応した相談支援等を通じ、最後のお一人にまで寄り添い、生活再建のステージに応じた切れ目のない支援を継続して参ります。

### (安全・安心なまちづくりの推進)

次に、安全・安心なまちづくりの推進について申し上げます。

すでに供用を開始している新大槌トンネルの案内標識及び安全対策工事につきましては、本年11月に完了したところであります。

また、町道大ケ口線、花輪田寺野線をはじめとする、復興事業などの工事車両の増加に伴い、舗装に損傷が生じている町道につきましては、補修工事を実施中であり、本年度内の完了を予定しております。

以上、行政報告を申し述べましたが、本定例会では、条例の制定や補正予算案等をご提案申し上げます。

何卒よろしくご審議の上、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、行政報告といたします。